

首都大学東京 学士課程教育

「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」

プログラムの名称：人文・社会系 社会学コース

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

（1）取得できる学位

学士（社会学）：社会学分野の卒業を要件として取得できる。

学士（社会人類学）：社会人類学分野の卒業を要件として取得できる。

学士（社会福祉学）：社会学福祉分野の卒業を要件として取得できる。

（2）取得できる資格

① 卒業することで取得できるもの

・該当なし

② 卒業することで受験資格を得られるもの

・該当なし

③ 別に定められた課程を修めることで取得できるもの

社会学分野：教員免許（高校一種／公民、中学一種／社会）、社会調査士

社会人類学分野：教員免許（高校一種／公民、中学一種／社会）、学芸員（公立・私立博物館の民族部門）、社会調査士

社会福祉学分野：教員免許（高校一種／福祉）、社会調査士、社会福祉士（国家資格）の受験資格、社会福祉主事／児童指導員の任用資格

④ 卒業することで一部の試験科目が免除になるもの

・該当なし

（3）育成する人材像

社会学コースでは、人間が育む多様な価値観に対する寛容な態度、徹底的な現場主義の姿勢、確かな情報収集能力と批判的思考力をあわせもち、現代社会が抱える様々な諸問題にむきあうことができる行動的な人材を育成する。社会学・社会人類学分野の卒業後の進路は、一般企業、官公庁、大学院などへの進学の間になっており、海外進出企業・グローバルな活動機関でも活躍している。社会福祉学分野の卒業生は、一般企業を含む多様な職場に就職しているが、官公庁（国・都道府県・市町村）、病院、社会福祉協議会、福祉施設、大学院進学などが比較的多くなっている。このように、社会学コースの卒業生には、公共部門、一般企業、非営利部門など、さまざま部門への進路が開かれている。

(4) プログラムの特色

急激に変化する現代社会や大都市において発生しているさまざまな現象や課題について、理論的かつ実践的に学ぶことができる。コースには、次の3つの分野がある。

社会学分野では、社会学の基礎概念と諸理論を踏まえ、現代社会や都市の抱える諸問題をネットワーク構造論、サブカルチャー論、ジェンダー論、コミュニティ論、エスニシティ論、社会階層論など多様な視点から学ぶ。また社会調査方法論を踏まえた現地調査を体験することができる。

社会人類学分野では、世界の社会や文化の見方に関する基本概念を学びながら、特にアジア・アフリカ・オセアニア・アメリカの諸民族の環境・政治・経済・社会・文化の特色を理解し、それをグローバル化している世界の文脈に位置づけて理解する。これにより世界各地の社会・文化に見られる生活や価値観の多様性や創造性、あるいは混ぜこぜの生活スタイルなどを世界比較の視野から捉え、過去・現在・未来にわたる人類のあり方を学ぶ。

社会福祉学分野では、経済のグローバリゼーションや情報化、少子高齢社会の到来などによる生活環境の変化を理解し、何が社会福祉問題なのかを明らかにしつつ、それに対応する社会福祉学全般の制度・政策や方法を学ぶ。また希望すれば社会福祉施設や機関での現場実習を体験することができる。

(5) 獲得すべき学習成果

社会学コースの学生は、卒業（学士の学位の授与）までに社会学分野・社会人類学分野・社会福祉学分野のいずれかの学修を通じて、それぞれの分野固有の知識・理解及び技術とともに、普遍的に有効性を持つ能力として以下の学習成果を獲得すべきものとする。

①分野固有の知識・理解及び技術

社会学・社会人類学・社会福祉学の理論と方法論に関する専門的な知識・理解及び技術、人文社会科学全体に共通する幅広い教養としての知識・理解。

1. 社会学分野：社会学の基礎概念と諸理論を踏まえ、現代社会や都市の抱える諸問題を、サブカルチャー論、ジェンダー論、コミュニティ論、エスニシティ論、社会階層論など多様な視点から考察する能力を獲得する。
2. 社会人類学分野：社会人類学の理論と方法論を踏まえ、世界各地の諸民族の環境・政治・経済・社会・文化の特色を理解し、それをグローバル世界の文脈において理解する能力を獲得する。生活様式や価値観の多様性や創造性を世界的な比較的視野からとらえ、過去・現在・未来にわたる人類のあり方を考察する能力を獲得する。
3. 社会福祉学分野：社会福祉学の専門的知識をふまえて、社会福祉問題を生活に密着して総合的に把握し、能動的に学習する姿勢を培う。社会保障・社会福祉の政策理念・方法・制度・歴史などの諸科目を通して論理的思考力をつけ、同時に生活問題・ニーズを抱える人びとを支援する仕組み

を実習等を通して学び、コミュニケーション能力や情報活用能力を獲得する。

②当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力

コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力、能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚、異なる文化・社会への理解力。

(6) 卒業要件

社会学コースの卒業要件は以下のとおりである。(本学在学生在が卒業要件を確認する場合は、必ず入学年度発行の『履修の手引』を参照のこと)

首都大学東京都市教養学部人文・社会系規則(『履修の手引』参照)のとおり、4年以上在学し、言語科目のうち第二群言語科目 12 単位、およびそれ以外の基礎科目群、教養科目群、基盤科目群 26 単位ならびに専門教育科目 74 単位を含む 130 単位以上を修得した者は卒業と認める。社会学コース各分野における専門教育科目の必修単位数は次のとおりである。

① 社会学分野

1. 社会学分野については社会学専門教育科目を 54 単位以上(要件 2 において指定する必修科目 24 単位を含む)を修得しなければならない。

2. 社会学分野の必修科目は次のように定める。

(イ) 社会学原論、都市社会学Ⅱ、社会学基礎演習(計 10 単位)

(ロ) 社会学特論演習(4 単位)

(ハ) 卒業論文(10 単位)

② 社会人類学分野

1. 社会人類学分野の専門教育科目を 54 単位以上(要件 2 において指定する必修科目 22 単位を含む)を修得しなければならない。

2. 社会人類学分野の必修科目は次のように定める。

(イ) 社会人類学基礎演習、社会人類学 A、社会人類学 B の 3 科目(計 8 単位)

(ロ) 社会人類学特論演習(4 単位)

(ハ) 卒業論文(10 単位)

3. 社会人類学 A と社会人類学 B はそれぞれ半期開講の独立した科目であり、文化人類学演習ⅠとⅡ、社会人類学演習ⅠとⅡはそれぞれ通年開講の独立した科目である。

③ 社会福祉学分野

1. 社会福祉学分野の専門教育科目を 54 単位以上(要件 2 において指定する必修科目 26 単位を含む)を修得しなければならない。

2. 社会福祉学分野の必修科目は次のように定める。

(イ) 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学原論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学卒論演習Ⅰ・Ⅱ

(ロ) 卒業論文(10 単位)

3. 社会福祉士受験資格科目、演習および実習の受講は別途指導。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

（1）専門教育における学習成果の確保のための科目編成・教授法・評価法等の基本的考え方

① 分野固有の知識・理解及び技術

社会学・社会人類学・社会学の理論と方法論に関する専門的な知識・理解及び技術、人文社会科学全体に共通する幅広い教養としての知識・理解。

② 当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力

コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力、能動的学習姿勢、倫理観・社会的責任の自覚、異なる文化・社会への理解力。

そのために、分野ごとに次のように教育課程が編成されている。

1. 社会学分野

1年次には、基礎科目・教養科目・基盤科目を通して、人間社会のために必要な幅広い視野を獲得する。2年次以降に社会学分野での学習を希望する学生には「社会学A」「社会学B」を履修することを指定し、1，2年次に教養科目として「都市社会学」「社会意識と社会構造」「社会調査法」を履修することを推奨している。これらの科目を履修することで、2年次進級後に専門知識を学ぶうえで必要な基礎知識を修得することができる。

2年次に進級した社会学分野の学生は「社会学原論」「都市社会学Ⅱ」「社会調査法Ⅱ」「社会学基礎演習」「社会学演習」「都市社会学演習」「社会調査法演習」を履修する。講義科目の「社会学原論」「都市社会学Ⅱ」「社会調査法Ⅱ」では社会学の学説史・理論・方法論を体系的に学ぶ。演習科目の「社会学演習」「都市社会学演習」は少人数のゼミ形式（12名程度のゼミを2クラス設置）により社会学のテキストの輪読を行い、「社会調査法演習」では社会調査の実際を学ぶ。

3年次では「社会学演習」「都市社会学演習」「社会調査法演習」の少人数ゼミ形式の演習を引き続き履修し、社会学における専門文献の講読と調査研究発表にとりくむ。また「社会学特殊講義」「都市社会学特殊講義」「社会調査法特殊講義」を受講することで、多彩なテーマとトピックについて専門的に学ぶことができる。これらの講義・演習を履修することで、卒業論文作成にむけて具体的な研究テーマを発見することができる。

4年次では、各指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導と、社会学分野全体の中間発表会等によって、卒業論文をまとめる。

2. 社会人類学分野

1年次には、基礎科目・教養科目・基盤科目を通して、豊かな人間理解のために必要な幅広い視野を獲得する。2年次以降に社会人類学分野での学習を希望する学生には「文化人類学A」「文化人類学B」「アジア・アフリカ社会論」「イスラームの社会」「社会学A」「社会学B」の履修を推奨する。これらの科目を履修することで、2年次進級後に専門知識を学ぶうえで必要な基礎知識を修得することができる。

2年次に進級した社会人類学分野の学生は「社会人類学A」「社会人類学B」「社会人類学基礎演習」を履修する。講義科目の「社会人類学A」と「社会人類学B」は社会人類学の学説史・理論・方法論を体系的に学ぶ。演習科目の「社会人類学基礎演習」は少人数のゼミ形式（12名程度のゼミを2クラス設置）により社会人類学の教科書を1年間かけて輪読する。また、「社会人類学基礎演習」では、教科書の輪読に加えて、受講生はそれぞれに取り組むフィールドワークの成果発表をあわせておこなう。その成果とりまとめのため、1泊2日の合宿セミナーでの中間報告会への参加と学期末のレポートの提出が求められる。

3年次からは「文化人類学演習Ⅰ」「文化人類学演習Ⅱ」「社会人類学演習Ⅱ」「民俗学演習」「地域研究演習」「民族誌研究演習」などの少人数ゼミ形式の演習が履修できる。これらの演習では、社会人類学とその隣接分野における専門文献の講読と研究発表を中心にとりくむ。年度毎に特色のある特殊講義を受講することで、多彩なテーマとトピックについて専門的に学ぶことができる。「社会人類学演習Ⅱ」では、調査実習のためのプログラムを用意している。これらの演習を履修することで、卒業論文作成にむけて具体的な研究テーマを発見することができる。

4年次には、指導教員毎のゼミ形式と個人指導形式による指導と、社会人類学分野全体の中間発表会等によって、卒業論文をまとめる。

3. 社会福祉学分野

1年次には教養科目・基盤科目等を通して、幅広い視野を獲得することを目指す。2年次以降に社会福祉学分野での学習を希望する学生には「社会福祉学」「生活と福祉」「社会と福祉」「社会調査法」「保健医療概論」を履修することを推奨している。これらの科目を履修することで、2年次進級後に専門知識を学ぶうえで必要な基礎知識を修得することができる。

2年次に進級した社会福祉学分野の学生は、必修の「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」と「社会福祉学基礎演習Ⅰ」「社会福祉学基礎演習Ⅱ」の履修が必要である。前者はソーシャルワークに関する基礎理論を学ぶ重要科目であり、後者は研究に必要なツールの使い方、文献の読み方、発表の仕方を学ぶ。また、社会福祉実習への参加を希望する学生(国家資格「社会福祉士」受験資格取得希望者)には、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術演習Ⅱ」を2年次に履修し、夏休みに基礎実習に参加することを課している。他に講義科目の「高齢者福祉論Ⅰ」「高齢者福祉論Ⅱ」「児童家族福祉論Ⅰ」「児童家族福祉論Ⅱ」「障害福祉論Ⅰ」「障害福祉論Ⅱ」も2年次の履修が望ましい。制度を扱う「社会保障論Ⅰ」「社会保障論Ⅱ」、「社会福祉法制Ⅰ」「社会福祉法制Ⅱ」等の科目も2年次履修を奨めている。なお「社会福祉学基礎演習Ⅰ」「社会福祉学基礎演習Ⅱ」では少人数のゼミ形式である。受講生がそれぞれ取り組む課題に即して、調査等を行い、演習で発表をし、成果のとりまとめを報告書の形

で出す。なお、社会福祉士資格の取得を目指さない学生に対しては、社会調査の基礎的な手法を学ぶため2年次に「社会統計学 I」「社会統計学 II」の履修を推奨している。

3年次に進級した社会福祉学分野の学生は「社会福祉学原論 I」「社会福祉学原論 II」が必修科目となる。個別の問題や制度の学習を経た上で、原理・原論を考える方が、理解が進むからである。またゼミに相当する「社会福祉学特論演習 I」「社会福祉学特論演習 II」は基礎的な学習を終えた3年次以降の履修を推奨している。これらの演習を履修することで、卒業論文作成にむけて具体的な研究テーマを発見することができる。社会福祉士国家資格の取得を目指す学生は、相談援助実習に参加するため基礎科目として「相談援助の理論と方法 I」「相談援助の理論と方法 II」や、「相談援助実習指導」の科目等を履修し、ロールプレイや事例検討を重ねて相談援助実習に参加する準備を整え、夏季休暇期間中に現場実習に参加する。その後、実習体験からの学びを考察していく。

4年次では、指導教員毎のゼミや個人指導の形式による指導を行う。「社会福祉学卒論演習 I」「社会福祉学卒論演習 II」を履修し、同時に社会福祉学分野全体の中間発表会等によって多様な観点からの意見や示唆を得ながら、卒業論文をまとめる。なお大学院受験希望者には外書購読の履修も推奨している。

(2) 全学共通教育における学習成果の確保のための履修要件・履修指導等の基本的考え方

① 基礎ゼミナール

課題発見から、調査・討論・プレゼンテーションまで、少人数制（24名程度）のクラスに分かれて学問の技法を修得するため、1年次前期に必修としている。コミュニケーション能力・総合的問題思考力・能動的学習姿勢を修得する。

② 言語科目

話す・聞く・読む・書くの4つのスキルを、レベル別クラスで反復して学習することによって実践的な英語を習得するために、1年次前期から2年次後期までの実践英語8単位を必修としている。また、未修言語科目のドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語のいずれかを1年次あるいは2年次に履修することを推奨している。これらの科目によって言語の基礎的な知識を修得するだけでなく、異なる文化・社会を理解できる能力を身につける。

③ 情報教育

パソコン活用能力だけでなく、情報収集・編集・表現・発信など、課題解決型の授業によるITスキルの実践的能力を身につけるため、1年次前期に「情報リテラシー実践 I」を必修とし、情報活用能力や情報倫理に関する知識を修得する。計算やデータベース、プログラミング、画像・音に関する実践的能力を身につけるために「情報リテラシー実践 II A、B、C」を選択することも

きる。

④ 基盤科目・教養科目

社会学分野では「社会意識と社会構造」「都市社会学」「社会調査法」「社会学A」「社会学B」を、社会人類学分野では「文化人類学A」「文化人類学B」「アジア・アフリカ社会論」「イスラームの社会」「社会学A」「社会学B」を、社会福祉学分野では基盤科目「社会福祉学」、および隔年開講の教養科目「生活と福祉」「社会と福祉」を、1年次のうちにできるだけ履修することを推奨している。また、幅広い教養を身に付け、総合的な思考力や問題解決能力を育成するとともに、多角的な視野を持つことを目的として、基盤科目・教養科目から合計14単位取得することを卒業要件にしている。

(平成25年度以降の科目群の名称を記載)

(3) 年次進行判定

2年次修了判定を以下の基準で行う。

次の①、②の要件を満たしていること。ただし、2年次を経ずに3年次に進級することはできない。

① 24ヶ月以上在学していること。

② 言語科目12単位を含む44単位以上を修得していること。

社会学分野の専門科目

授業科目名	単位数	履修年次	授業内容
都市社会学Ⅱ	2	2, 3	都市社会学の理論と方法
社会調査法Ⅱ	2	2, 3	社会調査法概論
社会学原論	4	2	社会学の理論と方法
社会学基礎演習	4	2	社会学の基礎文献の講読
社会学演習	4	2, 3, 4	社会学の理論と実践
社会調査法演習	4	2, 3, 4	社会調査法の理論と実践
都市社会学演習	4	2, 3, 4	都市社会学の理論と実践
社会学特殊講義	2	2, 3, 4	社会学の特定分野に関する応用研究
社会調査法特殊講義	2	2, 3, 4	社会調査法に関する応用研究
都市社会学特殊講義	2	2, 3, 4	都市社会学に関する応用研究
社会学特論演習	4	4	卒業論文の指導
卒業論文	10	4	

社会人類学分野の専門科目

授業科目名	単位数	履修年次	授業内容
社会人類学基礎演習	4	2, 3	社会人類学基礎文献の講読
社会人類学A	2	2	異文化理解の理論・方法・学説史
社会人類学B	2	2	異文化理解の理論・方法・学説史
民俗学特殊講義	2	2, 3, 4	東アジアの民俗文化
地域研究特殊講義	2	2, 3, 4	地域研究の視点と方法
民族誌特殊講義	2	2, 3, 4	社会の記述と文化の解釈
文化人類学特殊講義	2	2, 3, 4	文化研究の最前線とスキル
社会人類学特殊講義	2	2, 3, 4	社会研究の最前線とスキル

文化人類学演習Ⅰ	4	3, 4	異文化としての日本
文化人類学演習Ⅱ	4	3, 4	世界システムと文化の現在
社会人類学演習Ⅰ	4	3, 4	社会組織・社会構造・ジェンダー
社会人類学演習Ⅱ	4	3, 4	日本文化・フィールドワーク論
民俗学演習	4	3, 4	東アジアの民俗誌
地域研究演習	4	3, 4	地域研究の現代的課題
民族誌研究演習	4	3, 4	民族誌研究の現代的課題
社会人類学特論演習	4	4	卒業論文作成の指導
卒業論文	10	4	

社会福祉学分野の専門科目

授業科目名	単位数	履修年次	授業内容
社会福祉援助技術論Ⅰ	2	2, 3	ソーシャルワークの目的・対象・方法を学ぶ
社会福祉援助技術論Ⅱ	2	2, 3	ソーシャルワークの技術を学ぶ
社会福祉学原論Ⅰ	2	3, 4	社会福祉の諸課題について理論的に考察する
社会福祉学原論Ⅱ	2	3, 4	社会福祉の基本的な理論について学ぶ
社会保障論Ⅰ	2	2, 3, 4	社会保障の理念、歴史、制度体系を学ぶ
社会保障論Ⅱ	2	2, 3, 4	各制度の沿革、基本原理、制度内容を学ぶ
児童家族福祉論Ⅰ	2	2, 3, 4	児童福祉と家族福祉の理論を学ぶ
児童家族福祉論Ⅱ	2	2, 3, 4	児童問題及び児童福祉施策・方法の理解
高齢者福祉論Ⅰ	2	2, 3, 4	高齢社会と高齢者福祉制度・政策の理解
高齢者福祉論Ⅱ	2	2, 3, 4	高齢者支援方法論の検討
障害福祉論Ⅰ	2	2, 3, 4	障害者問題の構造を歴史と法律から学ぶ
障害福祉論Ⅱ	2	2, 3, 4	障害者政策を社会福祉及び関連制度から学ぶ
公的扶助論Ⅰ	2	2, 3, 4	公的扶助の理念、歴史、制度を学ぶ
公的扶助論Ⅱ	2	2, 3, 4	生活保護制度のしくみを学び、課題を検討する
地域福祉論	2	2, 3, 4	地域福祉の思想、歴史、方法、課題の理解
介護概論	2	2, 3, 4	介護理念、政策、方法と基礎的介護技術の習得
介護基礎Ⅰ	1	2, 3, 4	人体構造及び日常に関する理解
介護基礎Ⅱ	1	2, 3, 4	加齢及び障害に関する理解
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	2, 3, 4	相談援助の原理、理論等を学ぶ
相談援助の理論と方法Ⅱ	2	2, 3, 4	相談援助の方法論を学ぶ
社会福祉法制Ⅰ	2	2, 3, 4	社会福祉の法律的基础を学ぶ
社会福祉法制Ⅱ	2	2, 3, 4	社会福祉裁判事例の個別・具体的検討を行う
生活問題論Ⅰ	2	2, 3, 4	生活問題の実際を通し、その理解を図る
生活問題論Ⅱ	2	2, 3, 4	生活問題に関する理論を学ぶ
社会福祉の歴史と思想Ⅰ	2	2, 3, 4	欧米の福祉思想と歴史、障害の社会史も扱う
社会福祉の歴史と思想Ⅱ	2	2, 3, 4	日本の福祉思想と歴史を欧米と比較する
社会統計学Ⅰ	2	2, 3, 4	記述統計学を中心とした統計学の理論を学ぶ
社会統計学Ⅱ	2	2, 3, 4	推測統計学を中心とした統計学の理論を学ぶ
社会福祉国際比較	2	2, 3, 4	社会福祉制度に関する国際比較を学ぶ
社会福祉組織論	2	2, 3, 4	社会福祉のサービス組織について学ぶ
社会福祉行政論	2	2, 3, 4	社会福祉の運営管理組織について学ぶ
社会福祉学特殊講義	2	2, 3, 4	家族社会学の基礎について学ぶ
社会福祉学基礎演習Ⅰ	2	2, 3	社会福祉の諸課題に関する基礎的分析方法
社会福祉学基礎演習Ⅱ	2	2, 3	社会福祉の諸課題に関する応用的分析方法

社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	2, 3	社会福祉援助の実践現場について学び、実習を考える
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	2, 3	ソーシャルワークの基本的援助技術を学ぶ
社会福祉援助技術演習Ⅲ	2	3, 4	ケースワークのスキルを学ぶ
社会福祉援助技術演習Ⅳ	2	3, 4	グループおよびコミュニティワークのスキルを学ぶ
社会福祉援助技術演習Ⅴ	2	3, 4	ソーシャルワークについて事例分析から学ぶ
相談援助実習	4	3, 4	社会福祉機関・施設における180時間の実習
相談援助実習指導Ⅰ	2	3, 4	実習に関わる事前指導
相談援助実習指導Ⅱ	2	3, 4	実習に関わる事前および実習中の指導
相談援助実習指導Ⅲ	2	3, 4	実習に関わる事後指導
社会福祉学卒論演習Ⅰ	2	4	卒業論文作成の指導
社会福祉学卒論演習Ⅱ	2	4	卒業論文作成の指導
社会福祉学特論演習Ⅰ	2	2, 3, 4	社会福祉の特定の領域・テーマに関する演習
社会福祉学特論演習Ⅱ	2	2, 3, 4	社会福祉の特定の領域・テーマに関する演習
卒業論文	10	4	